

『不妊治療時代』

第一回目：「本当は子供は欲しくなかった？」

こんにちは。萱野雫です。

今回から、私の『不妊治療時代』の経験について、5回に分けてお話をして行こうと思います。

今日は「本当は子供は欲しくなかった？」というタイトルで、お話してみたいと思います。

前回のシリーズを聞いていただいた方は既にご存知かもしれませんが、私は親の反対を押し切って結婚をしました。

そんなこともあって私は、結婚した当時は、「やっと夫婦二人の生活がスタートしたんだ！」と言う思いが強くて、「子供」のことについては全然考えてなかったんですね。

といっても、「子供は持たない」と決めていたわけでもなかったんです。といつつ、子供は居なくてもいいかな、というふうな気持ちもどこかにありました。

それでも、「まあいつかは子供ができるんだろうな。。。と、とてものんきに構えていた部分があったんです。

新婚時代は、私も正社員としてフルタイムで働いていましたし、家賃が安いアパートに住んでいて、生活は比較的余裕がありました。

バブルがはじけた直後はまだ景気がよかったこともあって、時々外食したり、それでも、二人で毎月ある程度の額を貯金することもできたんです。

今とは全く違う状況だったんですね。

だから、夫婦二人で暮らしていくことは、かなり快適で、私はしばらくそれを楽しみたいと考えていました。

『DINKS』という言葉がもてはやされ始めた時期でもありましたね。

27歳で結婚した私ですが、子供を持つとしても、30歳超えてからでいいかな、なんて考えていました。

ただ、子供ができたら正社員として働けなくなるだろうから、在宅でも仕事ができるようになりたいと、考え始めるようになり、

29歳になった私は、翻訳スクールに通うことにしたんです。

将来、在宅で英語の実務翻訳を出来るようになりたいなと考えたからなんです。

その当時、これからの有望なジャンルとして「コンピューター翻訳」がありました。私はもちろんコンピューターのことは全く習ったこともなかったので、パソコンを買って勉強することにしました。

Windows3.1が出た頃の時代です。

そういった勉強に専念したいと思って、私は正社員を辞めて派遣社員として働くようになりました。

当時の「派遣」は休みやすかったですし、「事務職」でも時給が1,500円以上と、これもまた今とは全く状況が違ったんですね～。

で、ですねえ、翻訳の勉強のために買ったはずのパソコンが面白くなり始めて、私はそれにのめり込んでしまったんです。

そして、パソコンで音楽を作る「DTM」にまじりました。

そしてその後、ホームページを作ることにはまり始めました。

でも、そのおかげで、ホームページを制作する仕事を取ることができるようになったんです。

当時はまだホームページを作れる人が非常に少なかったので、私のような素人でも仕事が取れるような時代だったんですね。

このホームページの制作で、わずかばかりではありますがお金を得ることができ、家で仕事ができるようになりつつあったんです。

でも、本格的にやるんだったらデザインの勉強した方がいいのかな、そういった学校に通ったほうがいいのかと悩んでいました。

でももう30歳を超えていた私にとって、これからデザインの勉強なんてもう遅すぎるんじゃないかな、とネガティブな方向に考えていました。

デザインの勉強だけではなく、ホームページ制作には、プログラミングの知識があった方が有利だとも感じていました。

そこで私はプログラミングの本を買って独学で勉強しようと思いました。

最終的には挫折してやめてしまったんです。もう30歳超えたし無理だよなって。

今だったら、あの頃の私に「30代前半なんてまだまだ若いんだから、諦めたらだめだよっ」てアドバイスしてあげたいですね。

このように、私は結婚してから30代前半位迄、悩みながら、ウダウダとしながら、過ごしていた、と言っていいと思います。

今思えば、もし「本当に子供が欲しい！」と思っていたら、こんなに呑気に構えていなかったような気がしますので、やっぱり私は「本当は子供をそんなに欲していなかった」のかな...と思います。

実際、私は30歳を過ぎた頃に「子供はまだ？」と聞いてきた人達に対して、「子供はそんなに欲しいと思わない」と答えていました。

私は一人っ子だったせいもあって、兄弟というのがどんなものかわかりませんでしたし、小さな子供をあやすという機会もそうそうありませんでした。

たまに赤ちゃんとか小さな子どもをあやす機会があっても、子供をなかなかうまくあやせなくて、一方では他の子達は、上手にできているんですね。

そんなこともあって、劣等感というのではないんですけど、なんとなく小さい子供が苦手という意識を持ってしまったような気がします。

あなたも、もしかした小さい頃、こんな経験をしていませんか？
小さな頃の経験が影響して、「子供が欲しいか分からない」とか「子供を育てていけるか分からない」という気持ちになることはあるかもしれませんよね。

ただ・・・！

今の時代に子供を持つことに躊躇するのは「経済的な理由」が大きいのではないかと思います。

私が結婚してから30代初め位までは、まだ景気が良かったので、子供を生むことに対しての「金銭的な不安」というの、そんなにありませんでした。

社宅や賃貸アパートの借上げをしていた会社も多くありましたので、「楽勝」とは言わないまでも、当時の子育て世代は今よりも経済的に余裕がある時代でした。

やり方によっては旦那様の収入だけで暮らしていけましたし、女性もね、再就職先も今よりはあったんです。

でも今は、昔とは全く違いますね。

むしろ「子供を産みたくない」というより、経済的なことで「子供を産めない」というのが実情じゃないですか。

あなたが子供を積極的に持ちたくない理由の一つには金銭的な理由もあるのではないのでしょうか。

これはあなたの責任ではないのですから、本当に気の毒なことだと思います。

今、東京で子供を2人持って育てていくためには、世帯の年収が一千万位はないと苦しいといえますよね。

東京以外の都市でも、ある程度の世帯年収が必要ですよね。
かといって、地方は地方で「職がなかなかない」という問題もあります。

もし私が今の時代に結婚していたとしたら、

正社員はやめずにそのまま仕事を続けたり、自分にスキルをつけて年収の高い会社に転職して、子供ができるまで必死で貯金していたと思います。

また、子供が実際生まれたら、保育所に預けられるようになるまで実家の母にお願いして私が働いている間は子供の面倒を見てもらうようお願いしていたと思います。

今でこそ私の親とは和解していますが、親と連絡を断っていた頃、旦那さんから「もし子供が生まれたら、うちの親を頼ってもいいんだから」と言ってもらったころもあります。

特に今の時代、夫婦の世帯年収が高くなければ子供を持つことは大変むずかしいと思います。

もしかしたら今だったら、私は最初から「子なしでいこう」と選択をしていたかもしれません。

とはいえ、もしあなたが子供が欲しいという気持ちがどこかにあるのなら、

親御さんやパートナーの親御さんにサポートしてもらえそうなら、お願いするのが一番いいんじゃないかなって思います。

ここでいう「サポート」とは金銭的なものではなくて、具体的には「育児」や「家事」のことです。

親御さんがまだ60代なら元気ですからできると思います。

色々な理由から子供を持つことをためらっていると思いますが、もし心のどこかで「本当はできたら子供が欲しい」と思うなら、できるだけ早くその方向で考えたり行動した方がいいと、私は経験者として思います。

さて、、

子供がそんなに積極的に欲しいと思っていなかった私でしたが、親から「子供はまだか？」とプレッシャーをかけられるようになり、不妊治療を始めることになりました。

次回はそのあたりのことについてお話するつもりです。

それでは、ここまでお聞きくださりありがとうございました。

では、また次の月曜日に！

萱野雫でした。